

# 新屋表町通り 景観まちづくりガイドライン



昭和20年代の新屋表町通りの生活風景

中津川正次郎氏所蔵



このパンフレットは、新屋の市民有志、秋田公立美術工芸短期大学環境デザインコース、秋田市が協働で「新屋表町通り景観まちづくり」を行い、表町通りの景観のガイドラインとしてまとめたものです。

平成19年3月

秋田市

# 歴史と湧水の郷 新屋表町通り

新屋は、歴史的なまちなみが残る秋田市の中でも貴重な地域です。中でも通りに歴史的建築物や湧水が並ぶ表町通りは特に重要な地域です。



国土交通省秋田河川国道事務所提供

## 街道として発展

新屋地区の旧名は「百三段（ももさだ）」と言いましたが、これはアイヌ語の「流れ出る」という意の「モモサダ」に由来するという説があります。新屋と言われるようになったのは、土砂崩れで集落が移転したためと言われています。

新屋の雄物川岸にはかつて川湊が築かれ、秋田—酒田間の「羽州浜街道」（坂田街道）の1つ目の宿駅が置かれる宿場町でした。

## 豊富な湧水

新屋では、海岸線を南北に走る砂の小高い丘（新屋砂丘）へ降る雨と雪が、地下20mの地下水層へ溜まり、随所から良質で豊富な湧水となって流れ出ていました。昭和初期までは湧き水や井戸が500カ所以上あり、皆の台所として使用されていました。



中津川正次郎氏所蔵

## 醸造業の発達

新屋には、今も酒、味噌などの醸造業を営む歴史的建築物が残っています。

良質な湧き水と雄物川流域から運ばれる米を利用した酒造りは、消費地である久保田城下に近いという地の利を生かして発展し、最盛期には12軒の造り酒屋が営まれていました。

現在も表町通りには5軒の酒蔵と、豆腐・味噌・醤油などの醸造所、その蔵が並び、昔の面影を今に伝えています。



# 新屋表町通りのいま

新屋表町通りには、町家などの歴史的建築物がいくつも分布しています。その中の2つの建築物が、国登録有形文化財として指定を受けています。また、道路沿道には4箇所の湧き水があり、酒造会社脇の湧き水は、「長寿の泉」として市民に親しまれています。



平成7年、新屋地区に秋田公立美術工芸短期大学が地域に開かれた大学として開学しました。平成17年には、大学創立10周年を記念して「佐竹本三十六歌仙」の絵馬を新屋のまちなかに設置するなど、地域と密着した大学づくりを進めています。



まちなみが変わってきています



- ・看板、建築物、外壁など色彩の多様化
- ・通り沿いに空き地が増加
- ・樹木などの減少

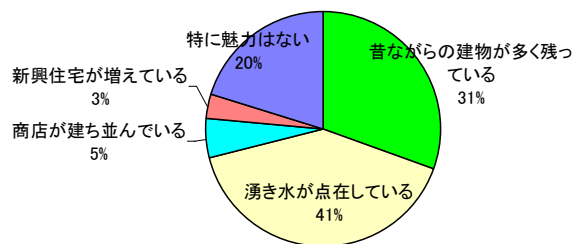


地域と大学がかかわる活動の始まり

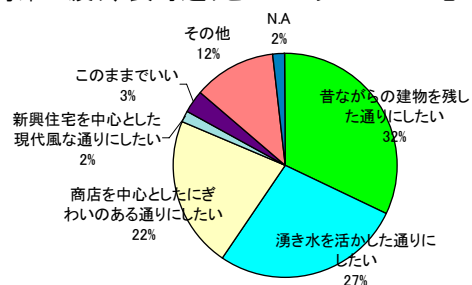
# 新屋表町通り景観まちづくり

望ましい通りの将来像を探り、その実現を目指して、通りにお住まいの皆さんと秋田公立美術工芸短期大学と秋田市が協働で「景観まちづくり」を行いました。

Q. 表町通りの魅力は何だと思いますか。



Q. 将来に渡り、表町通りをどのようにしたいと思いますか。



## アンケートによる意識調査

平成 18 年秋、秋田公立工芸美術短期大学の学生にご協力頂き、新屋表町通りの沿道の住民意識調査を行いました。

新屋表町の通り沿いに暮らす皆さんは、この通りの魅力を「昔ながらの建物が多く残っている」「湧き水が点在している」ことだと考えています。

そして、将来に渡る表町通りのありかたについて、「昔ながらの建物した通り」、「湧き水を活かした通り」、「商店を中心としたにぎわいのある通り」にしていくことを多くの人が望んでいるようです。



## 「新屋表町通りまちなみ景観ワークショップ」の開催

6回に渡りワークショップを開催し、通りの景観を話し合いました。ワークショップでは、まちなみ景観を考えるにあたり、まちの成り立ちや文化まで掘りさげた深い議論がなされました。

- ◇ワークショップ0(ゼロ):平成 18 年 9 月 27 日(水)
- ◇ワークショップ1(イチ):平成 18 年 10 月 13日(金)
- ◇ワークショップ2(ニ):平成 18 年 11 月 10 日(金)
- ◇ワークショップ3(サン):平成 18 年 12 月 4 日(月)
- ◇ワークショップF(ファイナル):平成 19 年 2 月 17 日(土)
- ◇まだまだ続くワークショップ:平成 19 年 3 月 19 日(月)



# 生活景の提案

ワークショップを通じ、参加した皆さんがどのようなまちに住みたいか、どのような表町通りを目指していきたいか話し合い、デザインし、提案としてまとめられました。



## 提案 1 醸造街道

表町通りに残る酒造や味噌、醤油などの醸造所、蔵を景観資源と位置づけ、「醸造街道」として全体的な景観形成を図り、統一感のある景観が提案されました。

また、通り全体の活性化を目指して空き店舗などを利用した「案内所」の設置が提案されました。



## 提案 2 交流の場づくり

表町通りに増えつつある空き地の通り沿いに板塀を設置して、景観の統一を図ることが提案されました。

また、空き地を活用した屋台や露店による活性化や、通り沿いにベンチなどの設置も提案されました。



## 提案 3 湧水の利活用

新屋を代表するイメージのひとつである湧水を活かし、周辺の景観に調和したポケットパークの整備が提案されました。

また、景観形成の一環として通り沿いに水路を整備し、潤いのある景観づくりが提案されました。



- ・ 歴史的建築物と調和した塀や垣根の整備
- ・ 建物外壁の色彩の調整
- ・ 空き店舗や空地の利活用
- ・ 湧水のイメージを活かし、通り沿いに水路を設置
- ・ 地域の人々や学生などが交流できる場所の整備

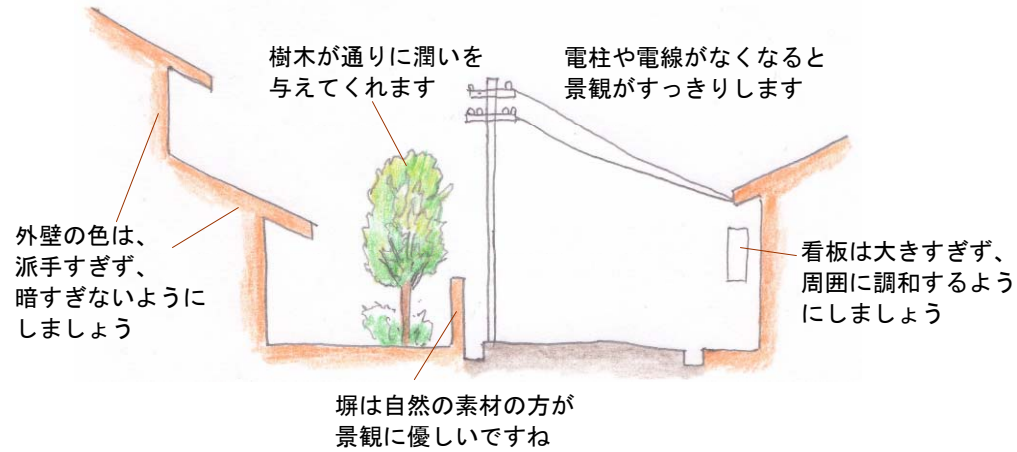
# 新屋表町通り景観ガイドライン

表町通りの伝統的で湧水をイメージさせるまちなみという良さを守り、今後の通りの新しい姿に活かし、より良い通りの景観をつくっていくため、景観まちづくりから得られた景観への配慮事項をガイドラインとしてまとめてみました。

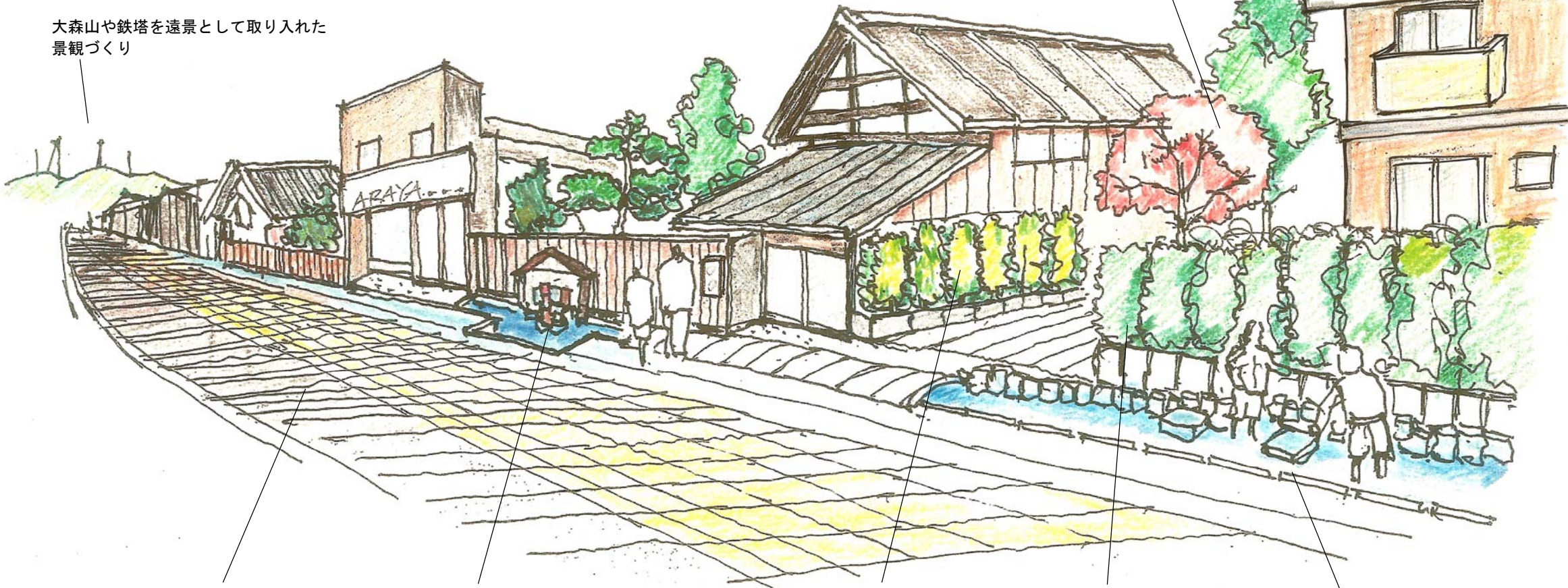
## 整備概念図

表町通りは、古いまちなみの面影を残す通りですが、そうした通りの良さを残し、また新たに作られていく建物などに対し、その整備方向についての配慮事項をガイドラインとして示すこととします。

ここの部分は、通りを歩く人は誰もが目にする景観です。私有地であっても、通りから見える範囲は、まちの景観への配慮をしていきましょう。



大森山や鉄塔を遠景として取り入れた景観づくり



通りの舗装の工夫による景観づくり

湧水モニュメントやベンチなどのストリートファニチャーによる景観づくり

壁面を植栽で覆う通りの景観づくり

生け垣や木塀による通りの景観づくり

湧き水の流れる水路を活かした景観づくり

通りから見える次のような景観要素に対し、ガイドラインの主旨に沿った整備をしていくことにより、より良いまちなみが形成され、次世代に継承していくことができます。

## 塀や垣根

新屋表町には、今も生け垣や木塀がまちなみをかたちづいています。こうした景観を残し、また増やしていくことにより、緑の多い特色あるまちなみを存続させていきましょう。



## 建物外壁

新屋表町は、良質の水を活かした醸造のまちとして栄え、通りの色は、白、灰色系や木の色が多くなっています。できるだけ周囲になじむ色にしましょう。



## 湧水

新屋表町の通りの道端には、今も水が湧き出て、地域のシンボル空間となっています。このシンボルを、まちなみの中にもっと活かすような工夫をしていきましょう。



## 通りで展開する「情景」

この通りには古いものと新しいものが、ほどよく存在しています。

酒造を営む町家、昭和の看板建築、モダンな住宅…

塀や垣根、樹木はそれらにつながりを持たせ通りに一体感があります。その塀には色々な看板が取り付けられています。

酒、味噌、醤油、しょつつる、カフェ、居酒屋…大学生の看板作品も見られます。最近では「アトリエ」の看板も目立ち始めています。

この通りにはお年寄りや若者、住み込みの大学生、小学生…いろんな世代の人がいて互いに挨拶を交わします。

そして井戸端のベンチに腰掛け話をしたり、お酒を飲み…絵を描き、写真を撮る湧き水の流れる水路で水遊び…

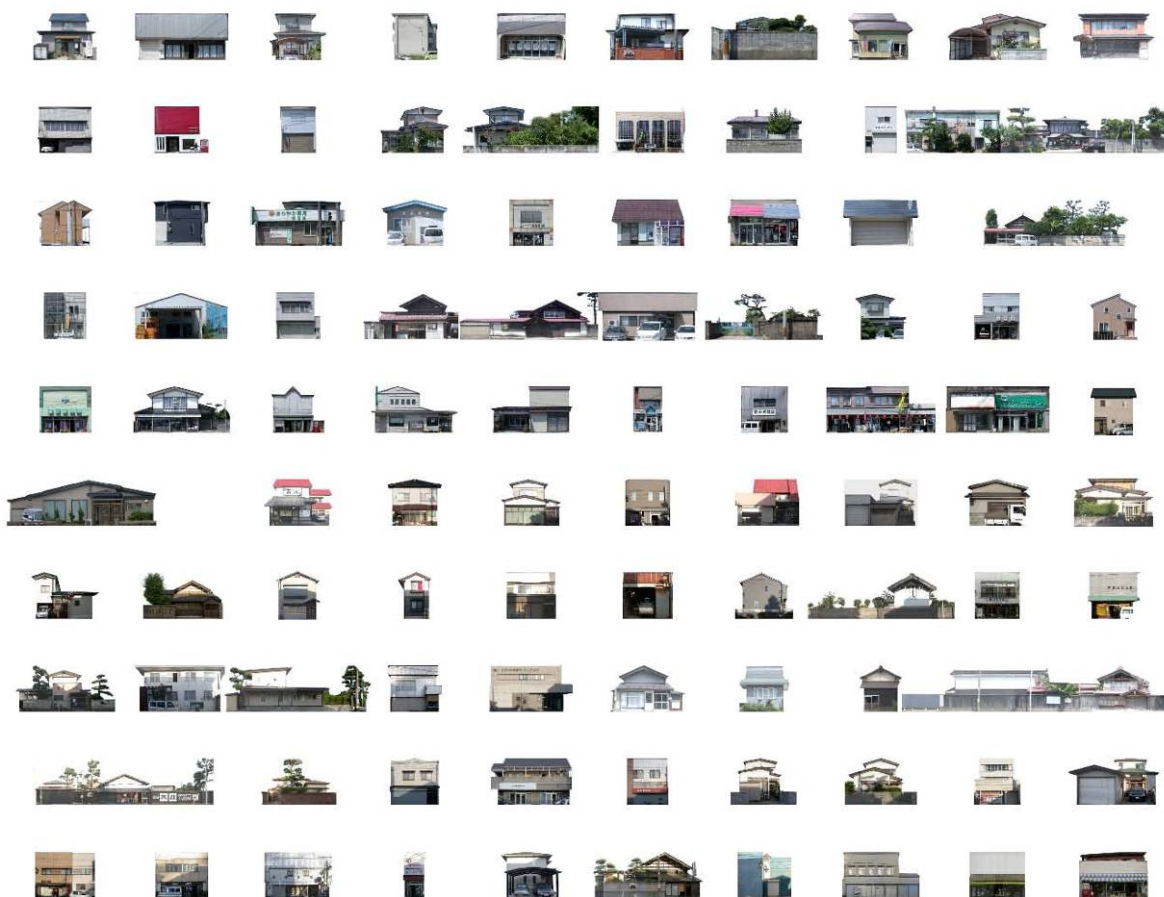
新屋表町通りに、様々な生活の景観が広がります。

# これからの新屋表町通りの景観まちづくり

表町通りの景観まちづくりは始まったばかりです。より良い景観は、皆さんの合意と熱意によって形成されることから、これからも住民主導の取組みを継続していくことが望まれます。



ワークショップ参加者撮影



## このガイドラインの役割

このパンフレットに示したガイドラインは、新屋表町通りの地域資源を活かして、通りの伝統的、文化的なまちなみを守り、建物の建て替えや改築、樹木の植栽、塀の改造などの際に、お互いに配慮してほしい点についてまとめたものであり、今後の参考にしてください。



新屋表町通り  
景観まちづくりガイドライン

編集発行：秋田市

### 【お問い合わせ】

秋田市都市整備部都市総務課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-866-2332

FAX 018-865-6957

Email [ro-urnn@city.akita.akita.jp](mailto:ro-urnn@city.akita.akita.jp)